

さくら

NPO法人相模原アレルギーの会
〒252-0303 相模原市南区相模大野 3-3-2
bono 相模大野サウスモール 3階
ユニコムプラザさがみはら
TEL: 042-745-8801 FAX: 042-745-8802
メール: allergy-kai@sagamihara-allergy.org
HP: <https://sagamihara-allergy.org>

新年の挨拶



NPO法人相模原アレルギーの会
理事長 長谷川 眞紀

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれ

ては恙なく新年を迎えられたことと存じます。

2020年はCOVID-19のため、混乱の内に幕を閉じました。人々を集める様々な行事が、オリンピック、パラリンピックを始め、中止され、延期され、縮小されました。当会の行事においても縮小、あるいは開催方法の変更を余儀なくされたものが多々あります。

しかし、こういうときこそ粘り強く、細々とでも活動を継続していかなければならないと考えています。

今年中にはワクチンの目処もたつものと期待しています。コロナウイルスはおそらく、これまで知られていた普通感冒の原因ウイルスとしてのコロナウイルスのように人間社会に存在し続けるものと思われま。ワクチンが使えるようになって生活や、仕事、学業などに与えたコロナ・パンデミックの影響は残るだろうと思います。

アレルギー疾患を持っていれば、そういう状況下でもコントロールをしっかりとやっていく必要があります。決して難しいことではないと考えています。皆様のご健勝を祈ります。



国立病院機構相模原病院院長

金田 悟郎先生

新年あけましておめでとうございます。昨年は相模原病院に格別なご高配を賜り誠にありがとうございました。本年が皆様にとって幸多き年でありますよう心より祈念しております。

昨年は、想像もしなかった新型コロナウイルス感染症が出現し、さらに想像を絶する拡大を示しました。中国

この号には

- 1頁 年頭の挨拶 長谷川理事長
- 2頁 金田院長 海老澤臨床研究センター長
- 2頁 COVID-19と喘息
- 6頁 医師のつぶやき 魂の重さ
- 7頁 患者の体験談
- 8頁 報告



武漢から発生したと考えられるこの感染症は、グローバル化した現代で過去の世界の歴史上の感染症に比類を見ないほどのスピードと地域で拡大を広げ、わが国でも

横浜のクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号内で生じたクラスターの影響で、相模原市を含めた神奈川県、医療機関は県の要請を受け、陽性患者さんの受け入れを早期から行い、最終的に712人が陽性確定となりました。このこともあり相模原市は早くから対応を余儀なくされた経緯があります。相模原市での初めての新型コ

ロナ感染者の入院ケースはクルーズ船とは別で、令和2年1月中旬に武漢関係者の陽性者であり、当院でも2月初旬に入院した患者さんから初の陽性が判明しました。地域支援病院である当院は、以前から新型インフルエンザ等の患者さんの受け入れを行っており、今般の新型コロナ発生に際しても、令和2年1月末にいち早く新型コロナ対策本部を立ち上げ、疑似症例を含めた新型コロナ患者さんの外来、入院の受け入れをすることといたしました。

当院は内科・外科・小児科・循環器科・産婦人科において相模原市の2次救急輪番を担当しており、多くの救急患者さんでは来院時に新型コロナの診断がついていないため、当院で従来から行っていた感染症の標準予防策をICT(感染対策チーム)中心に再度徹底するために、マスク、ガウン、アルコール消毒などの資材を充分量入手し、感染症マニュアルを再度確認、新たな知見を加味し修正を行いました。新型コロナ感染症の診断治療で最も重要なことはいち早く診断することであり、やはり決め手は検査と考えられます。当院PCR法は当時院内で行っていませんでしたが、相模原市と連携し、PCR検査

を導入しました。4月にはLAMP法によるRNA検出検査と、血液での抗体検査も院内、短時間で可能となりました。連休中の5月1日には第2外来に続く廊下に接続する場所に、プレハブ4棟による個室外来を設置し、そこで当院で行う手術患者さん全員の術前における検査として、LAMP法を追加しスクリーニングを行うことにしました。さらに現在は院内でのPCR検査も行えるようになっていました。

5月からは発熱者のスクリーニングとして、外来トリアージシートによるスクリーニングを開始し、6月からは病院正面玄関にて新患及び予約外の患者さんにはそのトリアージシートと発熱チェックによるトリアージを開始しています。現在はサーモグラフィも設置しており、正面玄関から来院される患者さんの体温を瞬時にモニターでチェックできるようになっています。この発熱トリアージのため、玄関がやや混雑する場合がありますが、皆様の安全のためご理解のほどよろしくお願いいたします。

このように相模原病院では様々な新型コロナウイルス感染対策を行っていますが、現在の国内外の感染は激しい勢いで拡大しています。ワクチン開発も実施レベルに近づいていますが、やはり個人で基本的な感染対策を行うことが何よりも一番と考えますので十分にお気を付けいただきたいと思います。今後も皆様の安心・安全を守る相模原病院であり続けるように職員一同鋭意努力いたしますので何卒よろしくお願いいたします。



新年のご挨拶

国立病院機構相模原病院
臨床研究センター長
海老澤 元宏先生

2021年の年頭にあたりご挨拶申し上げます。2020年4月1日付けで谷口先生の後任として臨床研究センター長を拝命致しました。

2020年は中国の武漢から始まった新型コロナウイルスのパンデミックが世界中に猛威を振るいともない1年になってしまいました。アレルギー疾患をはじめとした様々な基礎疾患を持っている患者さんの受診控えや病院などでのクラスターの発生など医療を一変させてしまうほどの威力でした。パンデミックにより医療のみならず社会活動を止めてしまうことも思い知らされ大変不自由な世の中になってしまいました。そのよ



うな環境でもオンラインなどにより講演会や会議など患者会の活動が続けられたことは素晴らしいと思います。最近ワクチンの開発など明るいニュースも散見致しますが、完全に自由な生活を取り戻すにはまだ時間がかかりそうです。

新型コロナウイルスは飛沫感染による感染力が強いため感染対策を行うことで他のウイルス感染症の伝播も抑えているようで、気管支喘息の増悪による入院なども半減しているようです。若い方にとっては軽症・無症状の感冒程度でも基礎疾患を有する方やご高齢の方にとっては致死的になるという変わった特徴があります。患者会の皆様におかれましてはアレルギー疾患の管理を怠らずに感染対策をしっかり行って健康にお過ごし頂きたいと願っております。

第41回アレルギー・ぜんそく講演会(令和2.11.22)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)とぜんそく

長谷川 真紀理事長

相模原アレルギーの会理事長の長谷川です。本来ここに来ていただいた皆様の前で、お話しするのが講演会ですが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響もありオンラインでの開催になりました。

図:1



「COVID-19」というのは、御存じと思いますが「新型コロナウイルス感染症」のことを、このように簡単に申し上げます。

図1は現在のCOVID-19の感染状況を示したものです。人口当たりの感染者数を示し、色が濃いほど感染者数が多い事を示します。南北アメリカ大陸、ヨー

ロッパ、ロシア、中東、インド、このあたりが非常に濃い色になっています。

そもその発生源である中国が日本よりも薄いというのが少し割り切れないところではありますが、このように全世界に蔓延しています。

世界における感染者数、死者数

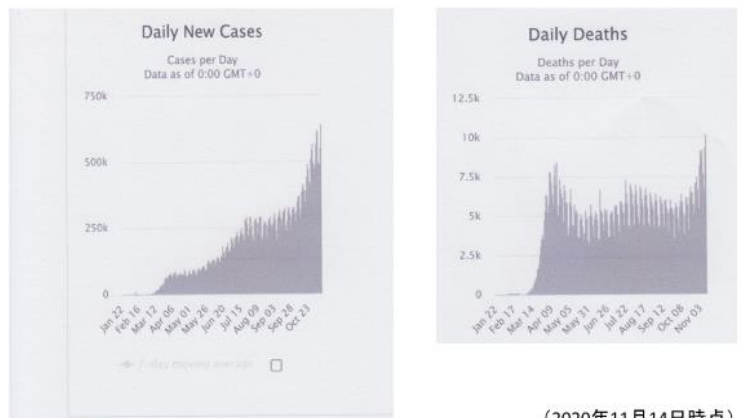
	全感染者数	新規感染者数	全死者数	新規死者数
全世界	57,865,432	629,794	1,376,499	10,777
アメリカ合衆国	12,254,092	180,842	260,138	1,805
インド	9,050,442	46,117	132,761	559
ブラジル	6,020,164	37,075	168,613	472
フランス	2,109,170	22,882	48,265	634
ロシア	2,039,926	24,318	35,311	461
スペイン	1,589,219	15,156	42,619	328
イギリス	1,473,508	20,252	54,286	511
アルゼンチン	1,359,042	9,608	36,790	258
イタリア	1,345,767	37,242	48,569	699
コロンビア	1,233,444	7,954	34,929	168

の COVID-19 がどのように見られるかというのを表にしたものです。2009年に H1N1 豚インフルエンザが流行りました。この時は全世界の 20%位の人が感染したと言われています。死者数が 10 万人~40 万人、死亡率が 0.02%です。2002~2003 年にかけては SARS 重症急性呼吸器症候群です。

これもコロナウイルスです。全世界で 8,019 人感染、そのうち 729 人が亡くなり、9.65%の致死率です。非常に大きく騒がれましたが、結局一万人足らずで終息しました。そして現在の COVID-19 です。5,786 万人の感染者、137 万人の死者、死亡率は 2.38%となります。このように死者数が突出していると言えます。

コロナウイルスとは、元々は風邪のウイルスとして知られていました。普通感冒いわゆる急性上気道炎です。SARS、MERS、

図3 世界におけるCOVID-19新規感染者数と新規死亡者数



(2020年11月14日時点)

図2は昨日現在の「世界における感染者数と死者数」です。昨日21日時点で、全世界で5,786万人余の感染者が居ります。20~21日にかけて増えた数が629,000人、死者数は全世界で累計1,376,000人新規死者数が10,777人ということで、収束の気配が全く見えません。

国別感染者数の多い順番を10か国ほど出してありますが、断トツで多いのがアメリカ合衆国の1,225万人、一日のうちで18万人余増えています。死者数が累計26万人、一日のうちで1,805人増えています。2番目がインドで感染者数が905万人、新規感染者数が46,117人、全死者数が13万人、新規死者数が559人。以下ブラジル、フランス、ロシアと先ほどの地図の色の濃い所がすべて入っております。

図3のグラフは、図2表の一週間前です。毎日の新規の感染者数が右肩上がりです。累積ではなくて一日当たりの感染者数ですから恐ろしいと言えます。累積にしましたら、もっと急峻なカーブになります。

右側は一日当たりの死者数です。5,000人前後できたのが、ここ一週間ずっと上にあがってきています。

今回の COVID-19 などが出てくる以前に、すでに風邪のウイルスとして、4種類のコロナウイルスが知られて

	H1N1 豚インフルエンザ (2009年)	SARS (2002~2003年)	COVID-19
感染者数	全人口の20%	8019人	57,865,432人
死亡者数	10万人~40万人	729人	1,376,499人
死亡率	0.02%	9.65%	2.38%

(2020年11月21日時点)

おります。

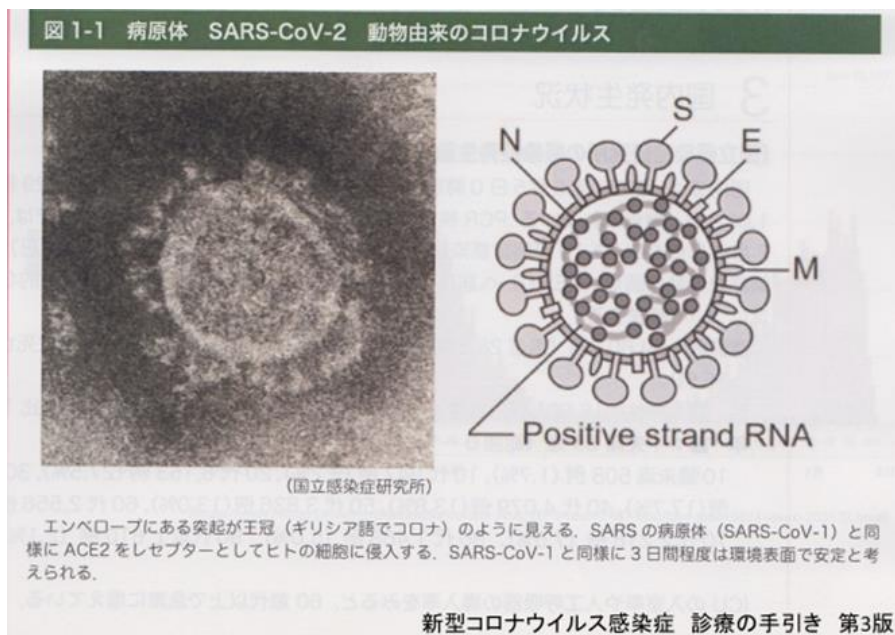
毎年、普通の風邪の10~15%はコロナが原因と言われていたわけです。2002年重症急性呼吸器症候群(SARS)が中国の広東省から広まり、死亡率は9.65%でした。2012年アラビア半島から中東呼吸器症候群MERSが発生しております。

そして2019年中国・湖北省武漢から新型コロナウイルス、これもSARS-CoV-2と名前がついていますが、これが広がり現在に至っております。

図6こちらがコロナウイルスの電顕像と模式図です。右の模式図には、表面から王冠のように突出した部分があります。王冠はギリシャ語でコロナなのでコロナウイルスという名前がついています。

Sという突出した部分で、人間あるいは他の動物の細胞の表面に発現しているACE2というたんぱく質にくっついて、細胞の中に入って行く。宿主の細胞の遺伝子を利用して複製して増えていくウイルスです。

図6



SARSの時と同様にACE2をレセプターとしてヒトの細胞に侵入します。SARS-CoV-1と同様に3日間程度は環境表面で安定と考えられます。机の表面、コンピューターのキーボード等の表面に付いても3日程度は生きているのではないかとされており、この図は「新型コロナウイルス感染症診療の手引き」を国がまとめており、そちらからいただきました。

伝播様式として、感染経路は飛沫感染が主体と考えられています。つまり咳とか、くしゃみとか、あるいは大声で話す時にとぶ飛沫です。

ただ汚染された表面からの接触感染もあり得るということで、一生懸命の表面とかを拭いているわけです。ドアノブや手すり、そういう所の消毒は必要になってきます。密閉された空間に於いては、短距離でもエアゾル感染の可能性もあります。エアゾルというのは飛沫感染の飛沫より小さな粒のことを言います。ただ空気感染、飛沫核感染というものほどは小さくないということですね。

潜伏期・感染可能期間は、潜伏期が1~14日とされています。だいたい暴露から5日程度で発症することが多いとされています。ですから一週間以内で発症することが多く、発症前から感染性があるというのが厄介な所です。まだ症状が出てくる前に、すでに人に感染させる可能性があるということです。発症から間もない時期の感染性が高い、つまり熱が出た、咳が出始めたという時の感染性が高い、これも厄介な所ですね。診断がきちんと付く前に、すでに周りに感染させる可能性が高いので。感染可能期間は発症する2日前から、発症後7~10日程度とされています。血液、尿、便から感染性のあるSARS-CoV-2を検出することは希です。つまり、血液、尿、便とかは、それほど注意しなくても良いということですね。やはり飛沫、人の前で咳をする、くしゃみをする、大声で話すというのが一番人に感染させる可能性が高い行為だということと言えます。



図8 これは11月号の日本内科学会雑誌に出た「新型コロナウイルス検査陽性者数」を示した図です。9月20日現在であります。左の第一のピーク、そしていま第三のピークが来ています。この小さな山がダイヤモンド・プリンセス号の時ですね。この時の感染者数は少数なのですが、ウイルスは中国から直接きたものです。次の第一波と言われている、ここは中国から直接ではなく、

図8
新型コロナウイルス検査陽性者数



欧米経由で入ってきたウイルスです。それ以降は欧米経由のウイルスということになります。左側の山の第一波は緊急事態宣言が出された時です。一旦治まったかに見えたのですが、それが解除されて右側の第二波が来ました。それが治まってきたと思ったら、また最近大きく増えています。

図9

診断週別・業種別新型コロナウイルス感染症届出数

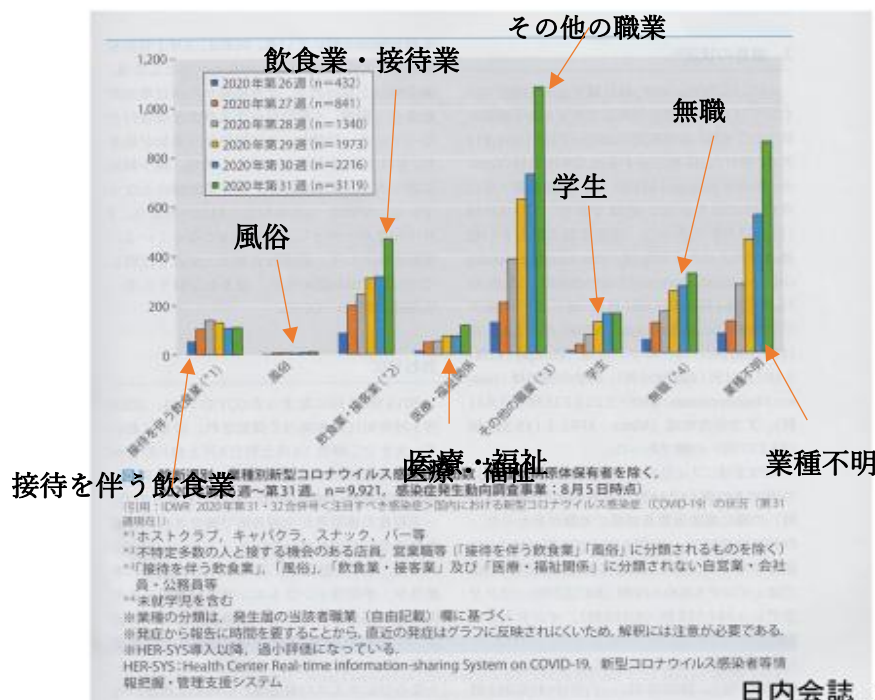
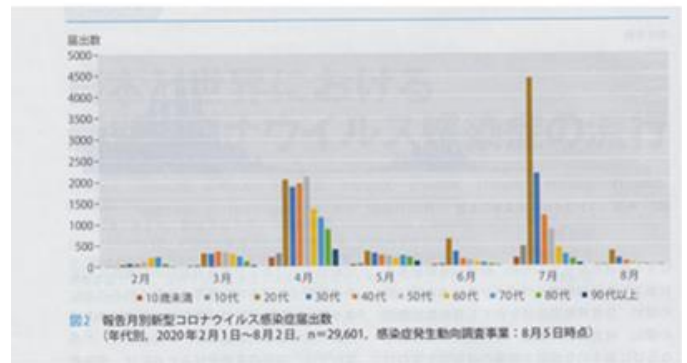


図9はどんな職業の人が罹っているかです。接待を伴うホストクラブ、キャバクラ、スナック、バー等は、色々言われたせいで増えてはいません。接待を伴わない飲食業これは増えてきていますね。その他の職業、これは就業している絶対数が多いということで一番多いわけです。あとは学生、無職、この中には未就学児も含まれます。どんな職業であっても、段々と多く出てきています。

図10
報告月別新型コロナウイルス感染症届出数



日内会誌 2020年第11号

図10 年齢別コロナウイルス感染症届出数です。4月は小児、子供にはあまり出なくて、大人は10代~40代と同じくらい出ました。7月になると20代が突出して増えています。あとから出てきますが20代の方は比較的軽症あるいは無症状の方が多いと言われています。しかも軽症、無症状でも感染性があるという事で、7月の20代が感染者を増やすのに貢献したのではないかと思います。現在は各年齢に広く出るようになりまして20代の突出というのは無くなっています。

(まとめ:馬淵)



医師のつぶやき(14)



魂の重さ

聖マリアンナ医大横浜市西部病院
呼吸器内科医長

粒来崇博

(つぶらい・たかひろ)

魂はあるのでしょうか？そして魂に重さはあるのでしょうか？そんな疑問から、重さを測ろうとした医師がいます。ダンカン-マクドゥーガル(1866-1920)というアメリカの医師です。6名の末期の患者さんと15匹の犬の亡くなる直前と直後の体重を記録したのですが、犬の体重は減少しなかったけれども、人間は体重が減少するので、人間に魂は存在し、魂に重さがある、という報告をしました。人に魂があるなら、犬にも魂はあるような気がするとか、6名だけ測ってわかるのかな、とかいろいろな疑問が浮かびます。当時から科学的信憑性に欠ける、とされ、本人もそれを認めています。ただこれをきっかけに、魂の重さという説が広まりました。一人目の減少体重が21gなので、魂は21gというものです。

2003年に、「21グラム」という映画があります。この説がきっかけです。

信憑性はともかくとして、私個人としてこれを信じたい事情があります。出典が思い出せなくてすみませんが、

(確か僧侶で作家の玄侑宗久さんだったと思います)、魂に重さがあるなら、これはどこにいくのだろうか、物体としてあるのではなく、もしエネルギーになるなら、 $E=MC^2$ のアインシュタインの式から、莫大なエネルギーになるのではないかとありました。仕事柄どうしても人の生死に関わらざるを得ず、もやもやしていたのですが、「はっ！」と思いました。

確かに、エネルギーになるなら、アインシュタインの相対性理論から過去にも未来にも違う次元にも行きたい放題になります。病気で亡くなった方がエネルギー体になって、自分の行きたい場所、行きたい時代にどこでも行けるというのは、とても素敵な話だと思います。きっと体の苦痛から解放されて、好きなことをしているのだろうな、というのは夢があります。だから、私は魂に重さがあったらよいなと思っています。



患者の体験談

食物アレルギーの子をもつ母親として

～人とのつながりを大切にする人生へ～

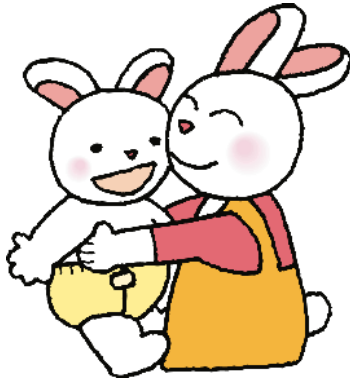
高梨 淑子

息子の食物アレルギーをきっかけに、人生は大きく変わりました。それまでの私は、大好きな仕事に就き、夢中で働いていました。またすぐに、育休から復帰するつもりでした。ところが、次男が生まれて、その生活は一変。泣いただけで目の周りが真っ赤に腫れあがり、「試合後のボクサーみたいだね」なんて冗談を言う程、生まれつき肌の弱い赤ちゃんでした。しかし、保湿をしっかりしていれば、それほど問題なく過ごせていました。生後6ヶ月を過ぎたある日、サンプルでもらった粉ミルクを離乳食に混ぜてみました。しばらくすると、ぼこぼこ赤く膨れた蕁麻疹が全身に広がり、のけぞり泣き叫びました。幸いアナフィラキシーには至りませんでした。あと少し症状が進めば救急搬送というところでした。

小児アレルギー科を受診し、検査等の結果、乳、卵、小麦、大豆、ナッツ類などの多種にわたる食物アレルギーが判明しました。まだ離乳食を始めたばかりで食べたことのないものばかりだったので、極々微量から摂取し、どの程度食べられるのか、本当に症状が出るのか、確認することから始まりました。新しい食べ物に挑戦し、いつアレルギー症状が出るかわからず、気を張る日々。そして、食べた物で次々と蕁麻疹が出る絶望感。あまりのアレルゲンの種類の多さに、家族にもどんな食事を作ってよいかわからなくなりました。「どうやって生きて行けばよいのだろう」「いつまでこの子は生きられるのか」「幸せになれるのだろうか」何度も『何でも食べられる息子』の夢を見ては、目を腫らして覚めるような現実感のない日々でした。

多忙な主人は、実際にアレルギー症状を目の当たりにしたことがなく、その温度差を感じたこともありません。でも今思えば、主人が常に冷静で客観的な視点を持っていてくれたことで、家庭内のバランスが保てていたのだと思います。また義母が、孫の食物アレルギーのことを勉強し、正しい知識を得てくれたことは本当に救いでした。安心して次男を預けられる人がいたおかげで、力を抜ける一瞬がありました。

その頃、最も強い恐怖を与えていたものは、周囲に理解してもらえない『孤独』でした。日々の生活で常に付きまとう緊張感、未来への不安、命と向き合う覚悟、周囲からの疎外感、それらは直接毎日関わる母親にしかわからない。どん底の暗闇の中において、もがいてもひとりではどうすることもできずにただ耐えていました。どうかそこから抜け出したい一心で、まだ赤ちゃんの次男を連れ、片道1時間以上かけて食物アレルギーのサークルへと足を運びました。そこで初めて、涙を流すことが出来たのです。同じ感情を味わってきた仲間がいる心強さ、お互いが共感できる安堵に包まれ、また先の見通しが見えることで、一筋の光がようやく差し込んだように感じました。次男の食物アレルギーという疾患を受け入れ、前に進むことができるようになるまでに要した1年もの月日は、とても長く重いものでした。



今度は、同じような思いを抱えた方々の力になりたい。そこから、「食物アレルギーの親子が暮らしやすい地域にする」という新たな目標に向かって動き出しました。まず、地域に食物アレルギーの子を持つ親御さん達のためのおしゃべり会の場を作りたい。そう思い、NPO 相模原アレルギーの会に問い合わせをすると、「一緒にやりましょう!」と返事をいただき、胸がいっぱいになりました。ここから、さまざまな方々との出会いがありました。

もちろん、毎日果てしなく続く息子の自宅での経口負荷は大変です。症状が出ると落ち込むことの繰り返しです。エピペン(アドレナリン自己注射)を取り出し、救急車を呼ぶ心構えをするような緊迫した状況になることもあります。風邪を引くだけでも、自宅負荷の際にはアレルギー症状が激しく出てしまうので、体調管理には気を遣います。長男の友達と遊ぶ際には、次男のアレルギーを理解してくれる方に限定されます。参加を断らなければならない場合もあります。肌にアレルゲンが付くだけで症状が出るため、食べ歩きをするような遊園地には、行くことができません。からかいの対象になったり、心無い言葉を言われたりすることもあります。

でも今、私にはたくさんの味方がいます。

何でも相談でき、モチベーションを上げてくれるおしゃべり会の友達があります。道を示し、強力な後押しを

してくれる NPO の先輩方もいます。息子達の小学校や幼稚園との面談でも、「理解してくれる仲間を増やす」という思いで臨んでいます。正しい情報を伝えるために、主治医としっかり方針を共有し、息子をサポートしてくれるチームを築くことを心掛けています。入院経口負荷試験の際には、仕事を調整してくれたり、長男と普段食べられないものを一緒に食べに行ってくれたり、当たり前のように協力してくれる家族に支えられています。そして何より、毎日を楽しそうに過ごす息子達の笑顔があります。

長期に渡って子どもの疾患と向き合う母親にとって、『心に寄り添う』存在の大切さを実感してきました。親御さん達が、「おしゃべり会」の場をきっかけに、周囲に安心して頼ることができるよう、切に願っています。



★活動報告 第41回講演会

11月22日オンラインによる講演会を開催しましたが、準備不足のため皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。次回は準備を整えて開催いたします。



“健康”という名の“しあわせ”を守りたい

鳥居薬品株式会社
〒103-8439 東京都中央区日本橋本町3-4-1
<http://www.torii.co.jp>

★おしゃべり会

2/21

2020年2回目(第5回目)

12月4日開催予定でしたが、中止いたしました。

*3月5日おしゃべり会をリモートで開催予定。明細はチラシをご覧ください。

「良く分かるアトピー皮膚炎の最新治療—小児から成人まで」 江藤先生

「ここまで分かったスギ花粉症—小児から成人まで」 後藤先生

「あなどれない大人の食物アレルギー」 中村先生

★相模原市教育委員会への訪問

12月7日相模原市教育委員会に当会理事長、副理事長、おしゃべり会リーダーが訪問し、来年改正される「アレルギー対応マニュアル作成」に「患者の声」を提出と作成時に同席できないか要望を提出しました。



★2月予定しておりました、アレルギー週間協賛事業

食物アレルギーを持つ患者と家族のための講演会&調理実習は、新型コロナウイルス感染拡大のため中止とさせていただきます。次回お会いできる日を楽しみにしております。

★寄付

イオン相模原店様 幸せの黄色いレシートキャンペーンより11月ご寄付いただきました。
(株)オータムリサーチ様より11月ご寄付いただきました。

★オンライン講演会情報：アレルギー協会主催
第27回アレルギー週間記念フォーラム

オンライン講演会 2月14日(日)、2月21日(日)
ホームページから申し込みができます。参加費：無料

「アレルギー協会HPから申し込みできます。」

https://www.jaanet.org/week/lecture_26th.html

2/14

「みんなが知りたい小児ぜんそくの話」 吉原先生
「新型コロナウイルスとぜんそくとの関連」 長瀬先生
「小児食物アレルギー、予防と治療のコツ」 大矢先生

☆連絡先

〒252-0303

相模原市南区相模大野3-3-2

Bono 相模大野サウスモール3階

ユニコムプラザさがみはら

NPO法人 相模原アレルギーの会

Tel : 042-745-8801 Fax : 042-745-8802

メール : allergy-kai@sagamiharaallergy.org

HP : <https://sagamihara-allergy.org>



生きる喜びを、もっと
Do more, feel better, live longer.
<https://jp.gsk.com>
グラクソ・スミスクライン株式会社

「いっしょがいいね」シリーズは石井食品の京丹波工場の食物アレルギー配慮工場で作られた商品です。
特定原材料7品目不使用 (卵・乳・小麦・えび・かに・そば・落花生不使用)
無添加調理だから
石井食品株式会社
<http://www.ishiifood.co.jp/>
お客様サービスセンター ☎0120-86-1914

★ボランティア募集!
さくら会報の編集、テーブルおこし、感想文、挿絵など。各講演会、講習会へのボランティア。企画の参加などのボランティアを随時募集しております。